

課 題	金福すいか及び銀福すいか果実表面キズ発生抑制試験		
担 当 者	石井 大樹 宮郷 明博 小森 治貴 平井 滄一		
目 的	<p>金福すいか及び銀福すいかの収穫は、6月中旬から7月中旬が中心で、中元シーズンと重なることから、高単価で贈答品として使われることも多く、ブランド化及び農家所得向上のために、贈答向けとして多く出荷したい考えがある。</p> <p>しかし、贈答品である以上、高い水準の品質が求められ、糖度などの果実内部のみならず、果実表面にキズがないなど外観の良さも求められる。</p> <p>このことから、果実表面のキズ発生を抑制するために、通気性や透光性に優れた布で果実を覆う方法やタマネギ袋で玉を吊る時期を調整する方法などを検討する。</p>		
供 試 品 種	金福、銀福(福井市園芸センター) [受粉樹] SA-75(榎萩原農場)		
試験区構成	1区 布被覆方法 果実縦径約4cm ころに行灯のようにAJ テックシートをかけ、縦径約8cm ころにタマネギ袋で玉吊りを行い、果実が布で覆われた状態にする。 2区 玉吊り早期方法 果実縦径約4cm ころにタマネギ袋で玉吊りを行う。 3区 玉吊り慣行方法(対照区) 果実縦径約6cm ころにタマネギ袋で玉吊りを行う。 4区 玉吊り遅延方法(対照区) 果実縦径約10cm ころにタマネギ袋で玉吊りを行う。		
区制及び株数	4区制 1区 5株		
耕 種 概 要	栽培条件	施設	
	定 植	5月14日	
	栽植密度	畝幅300cm×株間60cm×条間70cm×条数2条 110本/a	
	仕立て方	立体栽培、3本仕立て2果採り	
	施 肥 量	元 肥 堆肥	200kg/a
		苦土石灰	12kg/a
		有機入り複合肥料674Z号	8.5kg/a
		被覆燐硝安加里エコロング413(70日)	3kg/a
		苦土・有機入り複合A801T号	2kg/a
		苦土重焼燐1号	3kg/a
		けい酸加里	1kg/a
	成分量	N1.1-P2.1-K1.1 kg/a	
		注：堆肥、苦土石灰は全面散布、それ以外は畝内部分施肥	
	収 穫	7月7日～7月20日	

## 結果及び考察

収穫物調査における果実表面のキズの発生割合については、表 1、2 で示したように、AJ テックシートを被覆した 1 区の果実上部、中部でのキズの発生とキズの重症化が抑制された。果実下部については、すべての区で玉つりネットによる痕やキズが多発したため、今回の試験では区ごとのキズの発生割合を正確に判断することはできなかった。

キズの程度については図 1 に示したとおり、キズがない、ほとんど目立たないものを「1」、キズがあってもそこまで目立たないものを「2」、キズがとても目立つものを「3」と、点数で評価した。表 3 で示したように AJ テックシートで被覆している 1 区ではキズの程度の数値が高く、玉つりの時期が最も早い 2 区で 1 番数値が低かった。このように玉つりを早期に行った区ほどキズの程度が軽くなる傾向を示した。

以上の結果から、AJ テックシートによる被覆や早期の玉つりはキズの発生抑制、被害軽減に効果があることがわかった。本試験で使用した AJ テックシートについては果実生育に問題なく、生地自体は再度使用できると思われた。しかし、加工に手間がかかること、使用するとしわが生じて抜けやすくなる等の問題もあるため、別の資材を検討する必要があると考えられる。また、AJ テックシートや玉つりネットも使用方法によってはキズの要因となることがあるため、被覆する際に果実にこすれないようにすること、早期に玉つりを行う場合は十分に余裕をもたせることなどが必要である。加えて、被覆、玉つりを行う前のキズがつかないようにこまめに誘引を行う、果実に極力触れない等、栽培中はキズが付かないように常に注意しながら管理することが重要である。

表 1. 果実部位別 キズの発生割合

	1 区	2 区	3 区	4 区
上部	36.0%	55.2%	39.3%	68.2%
中部	76.0%	100.0%	92.9%	100.0%
下部	92.0%	79.3%	82.1%	90.9%

表 2. 果実部位別 キズが酷い箇所の割合

	1 区	2 区	3 区	4 区
上部	0.0%	3.4%	14.3%	9.1%
中部	56.0%	65.5%	67.9%	59.1%
下部	44.0%	31.0%	17.9%	31.8%

表 3. キズの程度

1 区	2 区	3 区	4 区
1.85	1.64	1.67	1.89



図 1. キズの程度の例  
左から順にキズの程度が「1」、「2」、「3」点のスイカ